

南アフリカ 初のアボカドが日本へ

[ASIAFRUIT 2024年7月15日](#)

今週の日本への最初のコンテナの出荷により、南アフリカ産アボカドの東方での新たな章が始まる

南アフリカのアボカド生産者は今週、日本に輸出される最初のコンテナがダーバン港から出荷されることを祝う。この出荷は、南アフリカと日本が今年これまでに市場アクセスに合意した*のを受けたものである。

亜熱帯果実生産者協会 (Subtrop) のデレック・ドンキン氏は「輸出用の果実が手続きをクリアした。我々はこのコンテナを使って、両国間で合意された新しい輸出条件のあらゆる側面を最終的にテストする。これがうまくいけば、さらなる出荷が期待できる」と述べた。

ドンキン氏は以前、日本への出荷条件では、2°Cで19日間の低温処理が必要であると述べていた。同氏は、「南アフリカの研究ではハスアボカドがこの処理に耐えられることが示されており、この条件下での英国への試験出荷は成功している」としつつ、「それでもなお、輸出条件の面で適切に提供できるよう確認し、日本での販売の新しい未来を順調にスタートさせなければならないと感じている」と述べた。

同国のアボカドにとって、2024年は中国、日本、そしてインドなど、東方で新しい市場を開拓する重要な年となった。ドンキン氏によると、南アフリカ初の航空輸送のアボカドは既にインドに到着しており、今後海上輸送のものが続くと思われる。最近、中国の代表団も南アフリカを訪問し、残されていた問題がすべて解決した。

今年はこれらの国への出荷は限定的だが、2025年は南アフリカにとってこれらの市場への最初の本格出荷の年になると予想されている。

一方、今年の南アフリカのアボカドシーズンは豊作で、従来からの輸出市場も堅調である。同氏は、「我々はさらに約2千万箱の出荷を見込んでおり、競合するペルー産の出荷が少ないため、我々の生産者にとって素晴らしい出荷シーズンとなっている」と付け加えた。

執筆者: フレッド・メインチェス

(*: 実際には[令和5年11月30日の告示](#)によります。)

中国 雲南省でブドウの出荷シーズン始まる

[FreshPlaza 2024年7月16日](#)

中国雲南省賓川^{ビンチュアン}県ではブドウの出荷シーズンが始まり、現在大量に市場に出回っている。地元の特産品を専門に扱う賓川緑之源農業発展有限公司の張雲新^{ジャンユンシン}総経理は、「シーズン序盤には出荷量が少なかったため、特にシャインマスカットは昨年よりも価格が良かったが、すぐに下落した。現在、国内外とも市場の需要は比較的低調で、売上も期待したほど良くない」と話す。(以下「」は同氏の発言)

賓川は主要なブドウ産地である。今年は天候に恵まれ、適度な降雨もあり、収量、品質、食味が安定している。「賓川産プレミアム赤ブドウの仕入れ価格は、現在、例年と同様の7~7.2元/kgであるが、仕入れる業者が少なく、販売が伸び悩んでいる。赤ブドウやクリムゾンなどの大量生産品種については、価格は急激に下がってはいないが、上昇の勢いはなく、取扱業者らは非常に慎重である。」(1元=約22円)

「一方、シャインマスカットの市場はいくらかよい。シーズン序盤は20元/kg以上であったが、現在は品質にもよるが13~18元/kg程度で、例年よりやや安くなっている。品質の良い緑色ブドウは今でも良い値が付いており、輸出需要もあるが、糖度や熟度の面で必要な要件を満たすブドウは少ない。」

「ニッチな品種の中には、味の良さと収穫量の少なさで市場価格の良いものもある。例えば、クイーンニーナ品種のブドウは高い価格を維持している。この品種は栽培が難しいため、他の品種に切り替えた生産者もあり、その結果収穫量が減り、販売が容易になった。別の品種であるスイートサファイアは、クイーンニーナよりも収量が高く、価格も優れているが、脱粒しやすく、保管や輸送に適していない。賓川県では、新しいブドウ品種も試作している。」

「輸出市場については、海外市場の引き合いは例年ほど強くなく、今年は輸出量が減少すると予想している。賓川のブドウの出荷シーズンは9月下旬ないしは10月上旬まで続く。」(以下省略)

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)